

2024年度（令和6年度）学校評価自己評価表

福山市立精華中学校区	校番 15	福山市立精華中学校
最終更新日		2024年（令和6年）4月 日

I 福山市

ミッション ビジョン 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
「福山100EN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容

- ・児童生徒は、人のため・学校のため・地域のためにできることはいかないかと考え活動を工夫している。
- ・小中9年の縦のつながりやかかわりを大切にした取組を継続していく。
- ・子どもたちが主体性を発揮できるように教職員はPDCAサイクルの視点をもってマネジメントしてほしい。

児童生徒の現状

- ・興味をもったことを探究したり、思いを実現させようと主体的に行動したりする姿が増えている。
- ・自分の考えを持ち、積極的に話したり書いたりするなど、自己表現力の育成に引く続き取り組む。
- ・人間関係の固定化やレジリエンスにややかけるところもある。

育成する力
（21世紀型“スキル&倫理観”）

めざす子ども像
(義務教育修了時の姿)
中学校区として統一した取組等

【知識・技能】【思考力・判断力・表現力】【主体的に学ぶ力】【自己形成力】

- ・確かな学力を身につけ、自ら進路を切り拓く子ども
- ・自己肯定感が高く、社会に貢献できる子ども
- ・「主体的な学び」の授業づくりに取組み、学力の向上を図る。
- ・「自己表現」「あいさつ」に取組み、自己肯定感の向上を図る。
- ・「自分で選び・決める活動」に取組み、自己形成力の向上を図る。

III 自校

ミッション

地域に愛着と誇りを持ち、生徒一人一人が主体的に学び、精華中で学んでよかったと誇れる学校

学校教育目標

夢と志を持ち、社会に貢献できる生徒の育成

現状

<児童生徒>

- ・素直であり、校内や地域でのボランティア活動に積極的に参加している。
- ・体育大会や文化祭等での行事では、生徒が主体的に活動できる。
- ・人間関係が固定化し、人間関係の広がりや、新たな関係の構築が難しい。

<授業>

- ・まず、自分の考えを持つ取組により、表現することへの抵抗感は和らいできている。
- ・話し合い活動で意見を交流することはできているが、内容が浅く、「深める」「広げる」ところまでには至っていない。
- ・自ら考え学ぶ授業を、生徒と教師で創り上げるよう取り組んでいる。

育成する力
（21世紀型“スキル&倫理観”）

めざす
子ども像
1年

主体的に学ぶ力

日常生活や地域社会をよりよくするために、様々な情報の中から必要な情報を活かし、解決している。

思考力・判断力・表現力

日常生活や地域社会をよりよくするために、自分の考えや意見を話したり書いたりしている。

自己形成力

生活や社会をよりよくするため、相手の立場も思いやりながら目標を決めて、最後までやり遂げようとさせる。

めざす
子ども像
2・
3年

生活や社会をよりよくするため、様々な情報を多面的・多角的な見方で分析し、課題を適切な方法で解決している。

生活や社会をよりよくするための課題を見つけ、既習事項を活用して、自分の考えや意見を話す・書く等で表現している。

誰に対しても思いやりの心を持ち、より高い目標を達成するために、相手の立場や考えを尊重しながら、粘り強く取り組み、やり抜いている。

研究

教科等
主題・
内容等

国語、社会、数学、理科、音楽、家庭、英語

自ら進んで考え、協働的に学びを深めながら、課題解決する授業の創造

- ・生徒が「わかる」「できる」を実感できるための教材研究と授業実践
- ・単元の中で、生徒自らが課題発見・解決できる過程のある授業を展開（考えてみたい、考えざるを得ない問いの工夫）
- ・個人思考の時間を確保（個人思考→話し合い活動→表現活動→個の振り返り）

めざす授業の姿

課題に対して、自ら進んで考え、仲間とともに、自分の考えを深めたり広げたりして、協働的に課題を解決していく、みんなが考える授業

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価（10月1日）			最終評価（2月末）				
							□指標に係る 取組状況	プロセス 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期(中期)経営 目標の達成状況	プロセス 評価	達成 評価	総合 評価
3	「主体的な学び」の授業づくりを進めて、学ぶ意欲と学力を向上させる。	★	継 続	主体的・協働的な学びを大切にした授業づくりで学力を向上させる。	・単元の中で、生徒自らが課題発見・解決できる場がある授業を実践する。 ・授業の中で議論の目的を明確にして話し合うことで、学びが深まる場をつくっていく。	・授業の中で「なぜだろう」「やってみたい」と思っている生徒の割合 80% 以上 ・テストの思考力を問う問題での無解答率 20% 未満（前年 24%）								
			継 続	読書活動に積極的に取り組む生徒を育成する。	・図書委員会を中心、校区や校内でおすすめの本を紹介しあう取組を充実させる。	・読書が好きな生徒の割合 80% 以上（前年 75%）								
3	教職員の資質・能力の向上を図る	★	継 続	研修によって「学び」への理解を深め、子どもの学びを促す実践力を高める。	・教科の本質や子どもの姿に着目した授業参観シートを作成し、授業参観に取り組む。	・研修により新しい発見があったり、研修で得た学びを自分の授業へ取り入れたりした教員 100%								
			新 規	学校における働き方改革の取組を推進する。	・アンケート調査等において、ICT を活用することで、業務の効率化を図る。	・「子どもが自ら学ぶ」授業づくりにあてる時間がある教員 80% 以上（前年 65%） ・時間外在校等時間 45 時間以内の教員 90% 以上（前年 84%）								
3	生徒の自己肯定感を高める		継 続	生活習慣を確立し、自分から進んで行動する生徒を育成する。	・計画的にボランティア活動を実施し、活動後の感想などを通信や掲示等で発信して、評価していく。 ・生徒主体の学校行事、委員会活動、係活動を充実させる。	・ボランティアに参加した生徒 60% 以上（前年 49%） ・やりがいや達成感を感じている生徒 90%（前年 87%）								

